

登録コード	UAF63500	開講年度	2026				
授業題目	精神生理学研究			担当教員	白井 真理子		
				副担当			
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・3時限		
			授業形態	講義			
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」			⇔	【授業の達成目標】		
(2)授業の概要	精神生理学とは、生理学と心理学にまたがり、主に人間のこころの働きが変化することで、身体反応がどのように変化するかという心身相関を探る学問である。本講義では、神経系の生物学的知識を踏まえたうえで、精神生理学の中心テーマとして扱われてきた感情研究の知見を軸に、人間の行動の背景にあるこころのはたらきを身体反応から探る手法やこころの変化が生体反応に与える影響について理解する。これらを通して、精神生理学の知識や考え方を利用しながら、自らの問題を考える上で役立つ知識、思考力の習得を目指す。						
(3)授業計画	第01回：ガイダンス 第02回：精神生理学とは 第03回：生物学的基礎（概説） 第04回：生物学的基礎（発表・討論） 第05回：生物学的基礎（まとめ） 第06回：生理指標・測定法（概説） 第07回：生理指標・測定法（発表・討論） 第08回：生理指標・測定法（まとめ） 第09回：感情と精神生理学（概説） 第10回：感情と精神生理学（発表・討論） 第11回：感情と精神生理学（まとめ） 第12回：社会・健康と精神生理学（概説） 第13回：社会・健康と精神生理学（発表・討論） 第14回：社会・健康と精神生理学（まとめ） 第15回：総合討議 授業終了後に期末レポートを課す。 なお、状況に応じて、予告した内容を変更する場合がある。						
(4)成績評価の方法	精神生理学に関する知見について、授業での発表および討論（50%）、最終レポート（50%）により評価する。						
(5)成績評価の基準	1. 生物学的基盤や生理反応測定手法の知識を理解できている。 2. 精神生理学における様々な知見を理解できている。 3. 精神生理学における問題点を理解できている。 4. 精神生理学における研究結果を抽象的に理解しながら、具体的な問題と関連づけて考えられている。 5. 学んだことを習得し、自分の意見としてまとめることができている。 1-5において5項目を満たしかつ優れた水準にあれば「卓越している」、5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目であれば「やや上にある」、3項目であれば「その水準にある」と評価する。						
(6)事前事後学習の内容	授業で取り上げる論文や書籍については、各自で精読し、問題点や疑問点をまとめておくこと。また、授業内容を復習し、わからない点は次回までに明らかにしてくること。						
(7)履修上の注意	近年計測技術の発展により、より簡便に生理反応を測定することが可能となった。日常の中でもそうした技術を目にすることが少なくないだろう。自身で学んだ知識を授業内だけでなく、日常の中でもどのように活かせるのか、活かされているのかについて、思索するように努めること。						
(8)質問、相談への対応	メール(mshirai@shinshu-u.ac.jp)にて受け付ける。						
【教科書】	授業内で指示する。						
【参考書】	アンドレアッシ J. L. 今井 章（監訳）心理生理学—こころと脳の心理科学ハンドブッカー 北大路書房 2012年, 7700円 堀 忠雄・尾崎 久記（監修）生理心理学と精神生理学第Ⅰ巻～Ⅲ巻 北大路書房 2017年, 4180円						